

目次

<特集I>
 効果を上げる！レッスン継続法【生涯学習編】・・・4
 Part1:第1回ピティナ・ピアノステップ相談役会議・・・4
 Part2:ピアノ指導者の考える生涯学習理想像・・・11
 Part3:参加者にみられるステップ継続効果・・・14
 Part4:ステップアドバイザーをどう養成するか・・・16

<特集II>
 ピティナ・指導セミナーvol.5・・・18
 上級指導へのアプローチ
 ～ロシア・イタリア・フランスの音楽教育から～
 朴久玲先生、今井彰先生、藤井一興先生

<特集III>
 ピティナ・課題曲公開セミナー・・・28
 付・邦人作曲家からのアドバイス

新連載/海外耳より情報・・・38
 連載/音大トップインタビュー⑥
 東邦音楽大学・・・36
 ピティナっこりレポート9
 根津理恵子さん・・・44
 はじめての指導者賞⑩・・・46
 支部を訪ねて 小金井支部・青梅支部・・・48
 鑑賞教育へのアプローチ
 入賞者記念コンサート・・・53
 音楽通論講座⑮ 秋山徹也・・・56
 ポピュラー活用講座 佐土原知子・・・60
 指導者基礎講座③ 諫山隆美・・・64
 作曲家研究⑪ 久元祐子・・・66

巻頭随筆 海老澤敏先生・・・4
 PTNA TICKET INFORMATION・・・50
 北から南から・・・78
 PTNA NEWS・・・79
 和音調子のひとりごと・・・89

【特集I】

効果を上げる！

Part1

第1回 ピティナ ～これか



学校法人東成学園(昭和音楽大学)理事長
(財)日本オペラ振興会常任理事

下八川 共祐氏

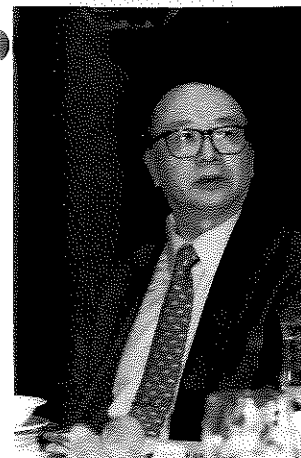


(社)全日本ピアノ指導者協会会長
羽田 孜

レッスン継続法

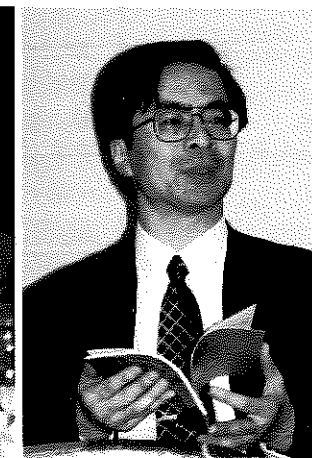
【生涯学習編】

ピアノステップ相談役会議 らの社会に即した生涯学習を考える～



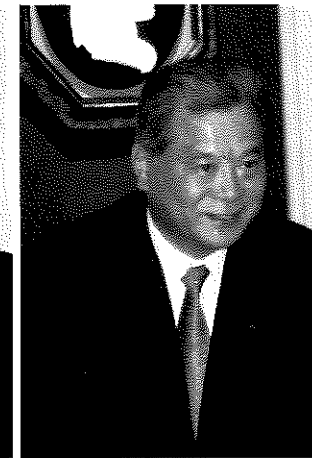
学校法人東京音楽大学学長

三善 清達氏



桐朋学園大学理事

西原 稔氏



(株)河合楽器製作所取締役
関東支社支社長

出井 俊之氏



(財)ヤマハ音楽振興会専務理事

笠井 英彦氏

去る3月19日(金)、東京の帝国ホテルにて、ピティナ・ピアノステップ相談役会議の第1回目を開催いたしました。この会議は、ピティナの生涯学習「ピティナ・ピアノステップ」に関して、各音楽大学や、各音楽関係会社のみならず、広くご意見を頂きたいという主旨で行われ、学校法人東成学園(昭和音楽大学)：下八川共祐理事長、桐朋学園大学：西原稔理事、東京音楽大学：三善清達学長、財団法人ヤマハ音楽振興会：笠井英彦専務理事、株式会社カワイ楽器製作所：出井俊之取締役、また当協会からは羽田孜会長、福田靖子専務理事、石井敏理事、武石とも子理事にご出席いただきました。

(部門別五十音順、以下敬称略)

社会で行われている生涯学習

羽田：本日はお忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また日頃より、当協会にお力添えを賜りますことを厚く御礼申し上げます。

さて、本日はまずは、ピティナ・ピアノステップ相談役会議の第1回目として、ピティナ・ピアノステップにご賛同いただきましたご相談役のみならず、生涯学習について広くご意見をいただければと存じます。何卒よろしくお願いいたします。

福田：当協会では、これまでもお話申し上げましたとおり、当協会生涯学習振興部の各委員会(ステップ実行委員会、検定・指導者育成委員会、実年音楽教室実行委員会、第11回まなびピアノin広島に関する委員会)を軸に、実年音楽教室および講師養成講座、文部省との全国生涯学習フェスティバル、各種検定を開催して参りまして、このピティナ・ピアノステップも、生涯学習振興部ステップ実行委員会で展開している事業の1つです。

まずは、各音楽大学では、生涯

学習について現在どのような取り組みをなされているか、ご紹介いただければと思います。

三善：第二次ベビーブームの影響を受け、文部省の方針により、ここ数年各大学では、入学定員の「臨時定員枠」を設置してきました。本学も含め、全国の音楽大学も例外なく実施してきたわけですが、この「臨時定員枠」の設置期間は、平成11年度までとなっております。

今後の少子化の波と生涯学習普及の波を受けながら、音楽大学としても次なる手だてを考える時期

にきているのは確かです。

現在、社会人対象に開講する一般的な制度としては、特定の授業についてのみ履修できる「科目等履修」があります。東京音楽大学では、一般教養としての講義の他、教員免許を取得するためのコースもあります。受講可能科目には、例えば最近人気の高い音楽療法やリトミック、音楽史、オペラ史など、一般大学では受けることのできないものもありますので、受講者には、現職の医者など、一般大学卒業生もおられるようです。学外への積極的な募集告知はしていないものの、毎年20~30名程度の職業・年齢も様々な受講生が集まっています。

下八川：昭和音楽大学では、1991年に新百合ヶ丘の昭和音楽芸術学院校舎内に「昭和音楽大学生涯学習センター」を設立し、一般の方々に広く生涯学習の機会を提供しております。今年度の『公開講座』はルイス・バラジョーラ先生の声楽公開レッスンなど、声楽を中心に14講座を予定しております。講師には学内の講師のみならず、日本オペラ振興会の声楽家や海外

のアーティストなど、大学のネットワークを活かした人材を講師に配置しております。大学で行う公開講座というと、在校生の受講者が多いのではというイメージをお持ちになるかと思いますが、大学のある厚木と離れているためか、新宿からの交通の便がよいためか、卒業生などをふくめ学外から多数受講いただいております。

西原：桐朋学園では、生涯教育に主眼をおいた講座やコースをあえて設定はしていませんが、本学の学生に限らず、ひろく社会人をも含めた多様な教育の場の提供につとめております。

特にディプロマ・コースは、全部で4コース（ソリスト、アンサンブル、ペダゴジカル、カレッジの各コース）あり、そのどのコースも大学卒業生、あるいはコースによっては中学卒業生でも受け入れるコースも設定して、柔軟な教育の場を提供させて頂いております。他の一般大学等に在籍しながら学んでいる学生や、卒業後に再び再教育の意味で学んでいる学生もおります。

本学の基本的な考え方として、



(社) 全日本ピアノ指導者協会理事
石井 欽

高校や大学の枠を越えた、幅広い年齢層を対象とした音楽の教育の場の提供があります。本学は子供のための音楽教室にその基礎をおくように、幼児教育には経験と実績がありますが、高校及び大学の卒業生を対象とした各種のコースや講座を開設して、そのカリキュラムに縛られない、しかも社会の要請に対応できる実践的な音楽教育を行っております。

羽田：なるほど。大学内でも附属機関で、様々な試みがなされてい

るわけですね。では、日本を代表する楽器メーカーの各社およびそのグループでは、生涯学習について、どのような展開をなされていますか？

出井：音楽の生涯学習といえば、シニアの世代では大正琴が大変普及しておりますが、カワイ音楽教室でも15年程前に大正琴の教室を開いたのが、生涯学習コースの始まりでした。カワイの大正琴教室の講師は、実はピアノ教室など他楽器の講師でもある場合が多く、これまでカワイ音楽教室で培ってきたレッスン形態が大正琴のレッスンにも反映され、大正琴の厳格な流派とは一風異なった、カワイ独自の方法で発展してきたといえるでしょう。

例えば、発表会では、オーケストラをバックに大正琴のアンサンブルをしたこともありましたし、通常のレッスンでも、ピアノやフロッピーディスクのデータ伴奏をバックに演奏しているそうです。また、当社は大正琴の製作も手がけているのですが、より音楽的な響きを追求したら、バス大正琴という低音域の大正琴が出来上がりまして、弦楽アンサンブルのような幅広い音程間の合奏も可能となりました。伝統的な大正琴の先生が、この合奏をお聴きになって、とても驚いていたそうですよ。

今、当教室の大正琴の生徒は、年々増加しており、また年齢層も幅広く、習得のしやすさに加えて、手軽に持ち運びができアンサンブルを楽しめるというのが、生涯学習として大正琴が普及している要因かもしれません。

笠井：ヤマハの音楽教育事業は現在では、国内で13000会場65万人の規模となっております。特に最近では、大人のためのギター、ドラム、歌をはじめ様々な科・コースを開設し、幅広い年齢層の人々が

昭和音楽大学

生涯学習センター（昭和音楽芸術学院内）

中村周氏



生涯学習センターが進めている事業のタイプは主として3つあります。「公開講座」の企画運営を中心に、そのほか「小出郷文化会館（新潟県）との提携事業」、「ビデオ教材の制作」があります。

11年度の主な公開講座は

- フルート公開講座/講師：有田正広/5.15、22、29
- ミュージカル講座/講師：J.リース、E.カーペンター/7.13~23
- ダルクローズリトミック講座/講師：平島美保他/8.19~21
- ルイス・バラジョーラ声楽公開講座/講師：ルイス・バラジョーラ/10月
- 音楽療法講座/未定など。（詳細はお問い合わせ下さい。TEL：044-953-1230）

「ビデオ教材」は公開講座を聴講することができない、もしくはじっくり勉強したいという方のために作

成しているもので、多くの方々に好評頂いております。

講座の運営面では受講者に、講座後アンケートを実施することによって個人個人の嗜好や要望を把握し、データ化しております。例えば「この人はリトミックに興味がある」とか、「ミュージカルが好みのようだ」等。現在登録者数は1,400人程になりましたが、嗜好別に行うDM発送で無駄な労力や費用を省くことができると同時に、リピーターの要望を次なる企画に活かす努力をしています。

しかしPRするだけではなく、多様化する要望に対してどう応えていくか、またどのようにして新しい受講者を募っていくかが、今後生涯学習センターの課題と感じております。

ひとくちコラム

楽しく音楽と触れ合える各種の教室を展開しておりますが、これは近年、特に成人層で楽器を習う方が非常に増えてきている事に対応したものです。また、自治体等の会場でも音楽学習の機会が持てるよう、音楽メニューのご提案も進めております。ピアノは日本では非常に人気の高い楽器です。大人の方も例にもれず、数多くの方が参加されており、人気の高いコースとなっております。

石井：各先生のお話を聞いていますと、大学には大学の事情があり、会社にはそれぞれの理由があって、大変興味を持ちました。私は長年、大学に関係していたので、大学の事情をいささか知っておりますが、大学には受験年齢というものが定められておりますので、生涯学習



(社) 全日本ピアノ指導者協会専務理事
福田 靖子 (左)
(社) 全日本ピアノ指導者協会理事
武石 とも子 (右)

(財) ヤマハ音楽振興会



音楽教育事業部 教育部
教室企画課

中村優氏

現在、財団法人ヤマハ音楽振興会は、全国約13000会場で開催され、生徒数は65万人にものぼります。その内約2000会場では、「大人のための音楽レッスン」を実施し生徒数は10万人ほどいらっしゃいます。学習者の多種多様なニーズに応えられるよう、22の教科を用意しております。

「大人のための音楽レッスン」の指導はヤマハのライセンスを持つ優秀な講師が指導にあたり、小人数のグループレッスンの中で仲間と楽しみながら音楽学習を継続

できます。また様々なジャンルにわたって多くのレパートリー曲を身につけられるよう、ヤマハのノウハウを結集したオリジナルテキストを使用。その他、ヤマハミュージックデータプレイヤーなど、専用のサポート音源によるリアルな演奏をバックにアンサンブル感覚あふれるレッスンを受けることができます。「何年ぐらいレッスンを受け続けたいですか」というアンケートに対して、「できるだけ続けたい」という答えが大半なのは嬉しいですね。音楽のレッスンを通して、他の趣味の話ができたリアフォーレッスンのお付き合いができたといった「仲間」ができることが大きな魅力なのでしょう。

ヤマハ音楽教室でのレッスンの模様



ひとくちコラム

というものに関して、自由にならない面があります。この生涯学習については、ピティナがここ数年やってきたことでありますが、三善先生のお話にございましたように、それが暫時開放されていく傾向にあることを嬉しく思います。それは音楽の学習というものは、年齢に関係ないという事実に基づいていることであります。各先生方のお話がピティナにとりましても、大変参考になります。

参加者にみられる学習ニーズ

福田：大人の音楽教室の生徒さんをご覧になって、どのような学習ニーズをお感じになりますか？

笠井：「大人の音楽教室」を始めた頃から、会社を定年された60才以上の男性の方の入会も目立ちました。「生きているうちにピアノを習えるとは思わなかった」と言っている方もいらっしゃいました。またTVドラマの影響も大きく、「ロングバケーション」が放映された当時には、20代の女性が多数教室に来られました。20代～30代の若いOLが増え、ポピュラー音楽学習のニーズもますます高まってきました。

武石：今、「月刊ピアノ」（ヤマハミュージックメディア刊）という雑誌が大変好評ですが、中高生だけではなく、ピアノ指導者で購入される方も多そうですね。

笠井：これも学習ニーズの多様化の現われではないでしょうか。先生の方でもクラシックに限らず、いろいろなジャンルで勉強することが必要になってきておりますよね。

出井：確かにポピュラー音楽を好む人は、年々増えてきていますね。大人向けの指導の場合、先生の方が生徒に近づいてあげることが求められるようです。実力やレベルの進行、好みに合わせて曲をアレンジしたり、即興的に伴奏をつけたりという、ポピュラー的な能力が必要になってきます。

しかし今現在、カワイ音楽教室の指導者をはじめ、ポピュラー奏法の教育を受けている指導者が非常に少ないようですね。カワイでもこのようなニーズに応えられるよう、アレンジ能力を育成する機会を設けています。

福田：時代とともに変化する学習者のニーズを受けて、指導者もまた、新しい教育ジャンルや指導方

法を勉強していかななくてはならないんです。これも、生涯学習ですよ。

ニーズを感じ取り、生涯学習をすすめる

西原：本校の音楽療法講座は公開講座として設定しているもので、開設以来すでに8年を経て、社会に定着しつつある講座です。この講座は基本的に大学卒業後の人を対象にしており、音楽と医療に関心を持っているさまざまな受講生の参加をいただいております。この講座の受講生にはこの講座は大学を卒業してある程度年数を経た方や、家庭の主婦などもおり、年々、受講希望者を増やしております。残念ながら、講座の授業人数のこともあり、希望者全員の受講をお受けできず、選抜させていただいております。

受講者を含め、音楽大学卒業生に限らず、さまざまな大学卒業生がこの講座に参加しておられ、この分野にみなさんの関心が広まっているのを実感しております。

下八川：約2年ほど前から、新潟県にある小出郷文化会館と企画を提携し、リトミックと合唱のセミナーを行っております。最近では、リトミックをカリキュラムに取り入れている音大が多くなってきたようですが、大学時代に実技教育を受けることができなかった40代以降の受講者にも喜ばれているようです。

三善：数年前からピアノ科のカリキュラムに、「ピアノ指導法」という講座を設置しておりますが、学外の様々なジャンルでご活躍されている指導者を講師にお招きしております。以前、大人の生徒向けの指導方法の研究として、ピティナから上総治子先生（ピティナ実年音楽教室実行委員長）に講義を



(株)カワイ音楽企画

音楽研究部長
佐藤敏直氏

カワイ音楽教室は河合楽器製作所が運営し、カワイ音楽企画がカリキュラムやメソッドなどの企画開発を行っております。生涯学習向けのコースにはポピュラーピアノ、大正琴、ドラム、バイオリン、フルート、ギター、ボーカルなどがあります。大人のレッスンは、ピアノ、大正琴を除くと、メソッドの統一はしていませんが、その分、指導者の幅広い対応力、柔軟性が重視されるので、指導者の育成の講習では、音楽教育家、心理学

者、海外音楽教育関係者、ポピュラー・ミュージシャンなど多分野の先生方をお願いしております。

その他、教材提供にも力を注いでおり、カワイ音楽研究所40年の経験をもとに、現在のライフスタイルに適した楽譜、CD、CD-ROM、音楽書籍などの音楽教材を開発しています。今までの音楽教育の領域から抜け出し、クラシックからポピュラーまで幅広く広いジャンルを扱い、多くの学習者に喜ばれています。

このように、みなさまの要望に応えるべく、これからの時代に即応した新しい教育システムの実現化を目指しております。



カワイ音楽教室

ひとくちコラム

行って頂いたりしたこともあるそうです。今後卒業生がどのように活躍していくか、楽しみにしております。

羽田：生涯学習は、文部省だけでなく、市や県といった地方公共団体でも積極的に推進体制の整備がなされています。生涯学習の普及には、今後ますます様々な団体との連携、協力体制は重要になるだろうと思われま

す。下八川：神奈川県には『かながわオープン・カレッジ』という生涯学習支援システムがあるのですが、これは大学やカルチャーセンターが個別提供している学習機会を、県が体系的・総合的にとりまとめ、学習者に低額で提供されているものです。この学習コースの中に、教養・文化コースというのがあるのですが、実は昨年度までのカリキュラムの対象には、音楽科目はありませんでした。県に音楽科目の設置を要請してきた結果、11年度から本校の企画するような音楽関係の講座も「かながわオープン・カレッジ」に参加できるようになりました。

三善：豊島区教育委員会は、区民の多様化、高度化する学習意欲に

応えようと、本学をはじめ、学習院、大正、立教の各大学と連携して、「大学公開講座」を実施しています。各大学の長をを生かした様々なテーマの講座が企画され、東京音楽大学は校内のホールにて、ピアノ、バイオリンなどのリサイタルや室内楽コンサートを中心とした講座を行ってきま

す。武石：他団体との連携といえば、毎年開催されている「ピティナ・ピアノフェスティバル」も、当協会が企画を、大学側が施設（会場）を提供する、という形で協力関係ができておりますね。このようなスタイルも、学内外の学習者の方々にとって、有意義な学習機会の設定と捉えることができるかもしれませんね。

西原：本学は仙川キャンパスと富山キャンパスの二つのキャンパスをもっておりますが、富山キャンパスでも市民のための公開講座や

小中学校及び幼稚園・保育園への出向演奏会を開催して各種の音楽教育の場を提供しております。富山での講座でも年輩者を含めて各層の方々

継続を促す為のシステムとは

羽田：ところで、文部省の方では、よりよい生涯学習社会の構築に向けた施策として、学習成果の評価に対する取り組みもしております。先に三善先生もおっしゃっていましたが、大学での社会人に対する単位認定もその一つですし、ピティナ・ピアノステップも、ある意味では、学習成果を確認する機会としての役割を果たしているわけなんです。

笠井：そうですね。今漢字検定など、資格をとるのがブームですが、自分が学習した成果の評価を受けることでやりがいを見出す人も大変多いでしょう。ピアノ学習においても例外なく資格取得のニーズがあることを感じています。

ひとくちコラム



教務課課長
鹿野道男氏
東京音楽大学

東京音大が一般の方を対象におこなっている生涯学習は3つあります。「科目等履修」豊島区と協力して行っている「大学公開講座」そして「民族音楽研究」です。

科目等履修は教育職員免許状を取得する「資格履修生」、すでに教職に就いている方で本学へ委託の要請があった「委託履修生」、学科科目の履修を希望する「一般履修生」の3つのコースに分かれます。毎年3月上旬より願書を受け付け、応募いただくのですが、今年度は23名の受講生がま

りました。また本校の付属機関である民族音楽研究所では、「ガムラン音楽演奏コース」を展開していますが、東南アジアからこの楽器を導入して今年で20年がたちます。このガムラン音楽教室は大変評判がよく、その影響もあってか、邦楽や他の民族音楽への興味も増してきているようです。ご興味のある方は発表会なども行っておりますので、ぜひお問い合わせ頂きたいと思

ひとくちコラム

桐朋学園大学では、卒業教育として社会人も参加できる講座、コースとして、「科目等履修生」「指揮教室生」「音楽療法講座生」等があります。

「科目等履修生」「指揮教室生」には、社会人も含まれているほか、「音楽療法講座生」では、他大学卒業後の社会人も数多く受講しております。

このほかに、富士キャンパスで卒業教育機関として、「大学院大学音楽研究科」「桐朋オーケストラ・アカデミー」があります。詳細はお問い合わせ下さい。(03-3307-4102)

桐朋学園大学 教務課

その一方、上達とか資格よりも交流する楽しさを求めている層もいます。発表会となると生き生きと演奏を楽しんでおられます。発表の場は交流の場ともなり、継続につながるのでしょう。

ヤマハでは、発表会は各会場で自由に企画され、実施されております。大人の教室では多い所でミニコンサート風に年に4~5回実施する所もあるようです。ピアノの教室では、ピアノやクラピノーバのある喫茶店などを借りて、アンサンブル等を仲間とわきあいあいと楽しんでいるようです。レッスンにはこななくても発表会にはくるなど、中には社交のツールにしている方もいらっしゃるくらいです。着飾るのもよし、ラフなところで楽しむのもよしというような自由な発想が、日本にもでてきましたね。

武石：当協会でも、以前から実施しているコンペティションでピアノ履修者の年齢的な発達に即して学習成果を競うあり方と並行して、あらたにピティナ・ピアノステッ

プという形で年齢を問わず広く一般ピアノ履修者の日常の学習の延長線上に発表の場を設けて、生涯にわたって継続して音楽の学習を楽しむことを応援してゆく部門ができましたが、非常に喜ばれ参加者も増加しております。

今後の生涯学習に向けて

福田：今後の生涯学習に向けて、現在どのような課題をお感じにならっしゃるか、また、どういった計画をなされていらっしゃるか、ご意見をいただければと思います。

三善：本校は池袋駅からは10分足らずというように、地理的環境は抜群なのですが、生涯学習の場として土日曜など大学施設を解放するには防音設備などさらに工夫する必要があると思います。また、これは一般的な問題でもあるかと思いますが、現在の教授陣が即、生涯学習向けの指導を、となったときに、やはり授業料や指導方法の研究が必要だと思います。しかし前向きに取り組みたいと考えております。

下八川：「生涯学習」と一言で言っても、音楽には幅広いジャンルがあります。情報化の進んだ現在ではありますが、受講者は求めている情報を十分与えられていないというのが現状です。今後は専門的情報をもっている団体との協力を深めていくと共に、受講者の要望に応えられるよう、地域の中核となる行政、実施側、受講者が密接に関わっていく必要があると思います。

出井：多様な音楽ジャンルの学習ニーズにどうこたえていくかということ、音楽の本当の楽しみ方をわれわれの側からどう発信できるか、その2つが合致するところに、本当の意味での生涯学習があると思います。音楽を楽しむ人々には、

伝統的な演歌からクラシックまでいろいろな好みがあり、その好みをも一つの枠にはめることはできません。われわれは、世界中の音楽の中で自分たちが知っているのはほんの一にぎりではないということを認識した上で、本当の音楽の楽しみ方を提供していく。その中から音楽の良さを心底から実感している人々の層ができてくればと感じております。

石井：西洋音楽が、教養の一つとして日本に輸入されたので、音楽を「楽しむ」ということから遠ざかってしまっているのが残念だと思います。音楽とは本来楽しいものであるということ、生涯学習をとおして日本人に浸透してゆくことを大いに期待しております。

福田：当協会もこれまでよりもさらに各音楽大学、各社との協力を深め、地域と密着した生涯学習を目指し、ピティナ・ピアノステップをすすめていく必要性を強く感じました。本日は、先生方からたくさんのご意見を頂き、大変嬉しく思いました。ありがとうございました。

羽田：みなさまの貴重なご意見をもとに、心豊かなピアノ愛好家が増え、さらなる努力を重ねて参りたいと思います。本日は、ありがとうございました。

Part2

ピアノ指導者の考える生涯学習理想像

～生涯学習における「学習成果の評価」はどうあるべきか?～

現在、行政では、文部省を中心に生涯学習社会の構築に向け、様々な施策を行っています。その一つに、「学習成果の評価」が掲げられ、技能審査事業や大学等での単位認定を拡大したり、採用における評価システムの改善をしたりしています。

これまでのピアノ学習のニーズにより教育形態を分類すると、

- 1) ピアノによる情操教育(青少年対象)：音楽の基礎能力を育むための、受験以前までのお稽古事
2) ピアノの専門家庭教育(青少年対象)：音楽大学合格者やピアニスト育成
3) ピアノの生涯教育(全世代対象)：ピアノ学習そのものを最終目的とした全世代対象の教育

と、主に3分野に分けることができます。

ピティナでも、ピアノ学習においても、それぞれのレッスンを通じて、生涯学習の輪が着実に広がっています。そのような中で、やはり生涯学習としてピアノに励む学習者を対象に、「学習成果の評価」の必要性を求める声が上がっていました。

そこで、ピアノにおける「生涯学習」のピアノ学習版は、ピアノ指導者にとってどのような形が理想的であるか、昨年度2月に調査いたしました。その結果は、13ページの通りです。

問1：生涯学習として、ピアノの継続的な学習を促すのに、「学習成果の評価」は必要だと感じますか?

まず、この問1に対し、「あってもよい」というご意見が過半数を超えました。この回答について、任意にご意見を伺ったところ、「学習者の特性によって、必要な方と不要の方がいる」というのがその主立った理由でした。

問2：学習成果の客観的測定・評価」として、活用されているものがありますか?

次に、問2で、「活用したことがある」とご回答の331名の方に、具体的に挙げていただきました。もっとも多いのがコンクールで、検定、発表会と続きます。ピティナ・ピアノステップを挙げられた方も32名いらっしゃいました。

先の「学習者の特性によって、必要な方と不要の方がいる」というご意見の原因について、従来の「学習成果の評価」が、「生涯学習」のそれに適していないのが原因と捉えることができるのではないのでしょうか。つまり、『生涯学習には、生涯学習の目的にあった「学習成果の評価」の仕方があるのではないか』という仮説を立ててみる事ができます。

問3：生涯学習を念頭に置いた「ピアノ学習の継続」において、以下の項目の必要度をお答えください。

「生涯学習」の学習の継続性にスポットをあててご質問をいたしました。項目は、20項目を設定し、必要度*を出しました。その結果をもとに、ピアノの生涯学習の「学習成果の評価」のあり方を考察するとともに、「ピティナ・ピアノステップ」のシステムを振り返ってみました。

※必要度の算出方法：「非常に必要」=5点、「必要」=3点、「あってもよい」=1点、「不要」=-3点、「弊害になる」=-5点とし、各回答者数と乗算したものを合計した。

生涯学習理想像その1：「目標水準よりも個人のペースが優先されている」

「1：無理のない適度なペース(進度)での学習」について、「非常に必要」「必要」は87%で、必要度は1537点でした。「学習成果の評価」に向けて、ペースを乱されることは望まれません。専門家庭教育の場合、合格水準やコンクール入賞レベルという目標水準が先にあり、それに向けてペース配分をする場合が多いですが、生涯学習の場合は、「個人のペースが最優先される」ことが望まれるという結果です。

生涯学習理想像その2：「練習時間、レッスン時間が最低限確保されている」

「2：少ない練習・レッスン時間での学習」について、「必要」と「あってもよい」という意見が同数でした(ともに38%/必要度726点)。できるだけ学習者の生活に順応させたいものの、「練習時間」については、「できれば割いてほしい」という意向の現れでしょう。少なくとも、「学習成果の評価」の機会のために、普段のレッスン時間を割くことは避けたい方が多いという結果です。

◎ピティナ・ピアノステップでは、選択可能な指定課題曲には、バイエルやツェルニーなどのオーソドックスな練習曲も含まれているので、普段のレッスンの延長線上にステップを位置づけられます。ショパンのエチュードレベルまで、23段階という細やかなステップに分け、

特集1

さらに再チャレンジのシステムも設けています。ステップアップのために無理をさせることはないように配慮されています。また、ステップに参加するために、普段のレッスンを中断して猛特訓しなくてはならないという事態も避けられます。

生涯学習理想像その3:

「学習者が自らの上達を実感できる」

「6: 上達を実感させること」について、必要度1701点と、全項目中もっとも高い回答で、「非常に必要」「必要」は合わせて96%、「不要」以下は0人でした。では、どうやって学習者に上達を実感させるか、その方法は多様で、「4: 学習した足跡(学習履歴)が見えること」(必要度1216点)や、「5: 自先の目標があること」によって目標をクリアする方法(必要度1450点)も、その1つといえます。ただし、従来のような、検定試験などの「12: 絶対評価による成績判定」やコンクールなど「13: 相対評価による成績評価」は必要度は、それぞれ330点、211点と低く、このような方法での上達の実感のさせ方は、やや消極的な結果です。「3: 「継続」していることへの褒美」についても、対象年代が広いことあるためか、「不要」という回答が16% (必要度691点) ありました。

◎ピティナ・ピアノステップでは・・・

ステップへの参加履歴である「ピティナ・パスポート」には、これまでにステップに参加した日時や演奏曲目、各アドバイザーからの曲ごとの5段階評価が記録されており、これまでにピアノを学んできた足跡が見えるようになっています。次のステップを目指しながら、パスポートの1ページ1ページを埋めていく楽しみがあります。

生涯学習理想像その4:

「生涯学習にも努力が必要だと理解している」

「7: 努力の成果を示すこと」についても、「6: 上達を実感させること」と同様、必要度1571点と、高い結果を示しています。生涯学習にも努力が必要であることを認識させるとともに、それを絶やすことのないよう、努力の後に喜びややりがいを感じさせるよう、考慮が必要だという結果です。

◎ピティナ・ピアノステップでは・・・

従来の検定と評価方法に関する大きな違いは、アドバイザーからは、参加者本人の置かれている状況(紹介コメントの内容から判断)や年齢なども配慮した評価やコメントが与えられることでしょう。当日の演奏の出来だけでなく、これまでの学習の過程を受け取れることが、アドバイザーには求めら

れています。

生涯学習理想像その5:

「学習者の弾きたい曲が弾けるようになる」

「8: レッソンの曲の好みも合っていること」も必要度1138点と高い数値でした。情操教育や専門家育成教育では、より指導者側の教育意図が反映された教材としての曲選びが求められるなら、生涯学習では、学習者の学習動機である「この曲が弾きたい」を達成させることがより重要になるという結果です。

◎ピティナ・ピアノステップでは・・・

演奏曲目2曲のうち、1曲は自由曲でも可能です。自由曲だけで出演したいという学習者のために、フリーステージというコースも設けています。ステップのプログラムには、名曲クラシックからポピュラーまで、多彩な曲目が連なっており、「自分にも弾けそうな好きな曲」を発見する場にもなっているようです。

生涯学習理想像その6:

「人前でも喜んで演奏ができる」

「9: 公開(人前)で演奏する喜びを実感すること」「10: 公開(人前)で演奏する能力を付けること」については、「あってもよい」という意見がともに3割前後でしたが、必要度はそれぞれ1284点、976点と、予想以上に高かったといえるのではないのでしょうか。「聴いてもらう」という人間との関わりの中で音楽を楽しんでほしいという指導者の理想が反映されている結果です。

◎ピティナ・ピアノステップでは・・・

ステップはどの会場も公開演奏ですが、演奏前に紹介コメントを設けるなど、和やかな雰囲気作りをしています。最初はガチガチに緊張して演奏していた参加者も、回数を重ねるごとに人前での演奏になれてきているようです。ステージに立って拍手を浴びるという喜びを知ることで、地道な練習の励みにもなることでしょう。

生涯学習理想像その7:

「劣等感を抱いていない」

「11: 劣等感を抱かせない」は必要度1643点と2番目に高い結果でした。「学習成果の評価」によって、他人との比較意識を助長されないよう、配慮が必要です。発表会やレッスン等で「他人の演奏を聴く」機会でも、即劣等感に結びつけないような聴き方を工夫することが望まれるでしょう。

◎ピティナ・ピアノステップでは・・・

コンクールのような選抜もなく、一般の検定のような合格基準が厳しいこともありません。アドバイザーのコメントには、長所を見つける視点、失敗を励ます思いやりが込められ、誰もが次のステップを目指したくなるよう配慮されています。

生涯学習理想像その8:

「音楽表現の多彩さを知っている」

「14: 他の学習者の演奏レベル・表現方法を知ること」は必要度1042点、「15: 複数の指導者からの自分の演奏に対する意見」は必要度832点、という結果でした。音楽表現の多彩さ、自分の演奏の長所を知る機会、能力を与えることも重要だとお考えになる指導者も少なくないことがわかります。

◎ピティナ・ピアノステップでは・・・

公開演奏なので、自分が勉強した曲でもいろんな演奏があることを、他の参加者の演奏をきいて実感できます。また、アドバイザーは複数いるので、同じ曲でもいろんなコメントがあることに気付いていくようです。ステップは良き聴衆を育てているのです。

生涯学習理想像その9:

「ピアノ学習者同士の交流がある」

「16: アンサンブルを取り入れること」必要度1297点、「17: ピアノ学習の仲間意識、連帯感を与えること」必要度1042点、「18: ピアノ学習者同士の情報・意見交換」必要度978点、と、ピアノ学習とは一見程遠い「ピアノ学習者同士の交流」は、比較的高い比率を示しました。ピアノに限らず、生涯学習において、仲間作り、仲間との交流は、ニーズが高いようです。

◎ピティナ・ピアノステップでは・・・

同じレッスン室の仲間だけでなく、他のレッスン室の先生方や学習者が集う場です。競争から離れた和やかな雰囲気の中で、自然な交流をもつことができるようです。ステップ・コミュニケーションという参加者同士のメッセージカードも互いに交換されたり、アドバイザーへのお手紙が送れたり、たくさんの中間でピアノ学習をしていることを実感できる場にもなっています。

生涯学習理想像その10:

「ピアノ学習者とピアノ指導者の関係が良好である」

「19: 音楽観が指導者と合っていること」は必要度1231点と、生涯学習においても高い結果でした。ピアノ指導者も仲間の1人なのかもしれませんが、このような自分にあった指導者を探すにあたって、「20: 自分に合った指導者の情報」(必要度1241点)はますます要求されることでしょう。

◎ピティナ・ピアノステップでは・・・

ピティナのホームページ(<http://www.piano.or.jp>)のホームページに、指導者紹介ページがあります。この指導者一覧には、指導者の様々なデータが記載されており、ステップに参加したいという学習者のために、ステップを利用している指導者も一目でわかるようになっています。

「生涯学習の目的にあった「学習成果の評価」のあり方について、「このような方法が考えられるのでは」「このような視点も必要では」というご意見がありましたら、ぜひ、同封のアンケートハガキまたはピティナ本部事務局生涯学習振興部事務局へお寄せください。

効果を上げる! レッスン継続法【生涯学習編】

問1 生涯学習として、ピアノの継続的な学習を促すのに、「学習成果の客観的測定・評価」(いわゆる学校の定期テストのようなもの)は必要だと感じますか?(左から「非常に必要」「必要」「あってもよい」「不要」「弊害になる」と感じている人数を%で表す) 1.8

5	21.4	53.4	15.7	2.5
---	------	------	------	-----

問2 「学習成果の客観的測定・評価」として、活用されているものがありますか。(左から「ある」「なし」と答えた人数を%で表す) 0.02

	76.2	21.6
--	------	------

問3 生涯学習を念頭に置いた「ピアノ学習の継続」において、以下の項目の必要度をお答えください。(左から「非常に必要」「必要」「あってもよい」「不要」「弊害になる」と感じている人数を%で表す)

1: 無理のない適度なペースでの学習	41	46	11	0/2	
2: 少ない練習・レッスン時間での学習	10	38	38	8	3
3: 「継続」していることへの褒美	18	26	38	16	0/1
4: 学習した足跡が見えること	25	48	22		0/0
5: 自先の目標がある	35	48	17		0/0
6: 上達を実感させる	52	44			4
7: 努力の成果を示す	44	44	11		1/0
8: レッソンの曲の好みも合っている	22	48	25	4	0
9: 公開で演奏する喜びを実感する	29	43	26		0/1
10: 公開演奏する能力を付ける	18	41	33	6	0
11: 劣等感を抱かせない	52	37	9		1/0
12: 絶対評価による成績判定	5	18	58	14	4
13: 相対評価による成績評価	20	56	16		2
14: 他学習者の演奏レベル・表現方法を知る	19	43	32	5	0
15: 複数の指導者からの演奏に対する意見	13	33	46		4/2
16: アンサンブルの導入	29	44	25		1/0
17: ピアノ学習の仲間意識、連帯感を与える	18	42	35	4	0
18: ピアノ学習者同士の情報・意見交換	14	43	39		3/0
19: 音楽観が指導者と合っている	25	52	18	5	0
20: 自分に合った指導者の情報	24	50	22		3/0

アンケートにご協力
いただいた先生方

(50音順・敬称略)
p12~17

- 青柳 真知子 (福岡県福岡市)
- 赤羽 奈美子 (長野県佐久市)
- 秋谷 和子 (兵庫県宝塚市)
- 浅見 英夫 (埼玉県蓮田市)
- 生明 葉子 (千葉県我孫子市)
- 足立 由起子 (兵庫県宝塚市)
- 熱田 康子 (高知県高岡郡)
- 安部 里子 (高知県高岡郡)
- 安部 朋子 (大阪府寝屋川市)
- 安部 美智子 (東京都多摩市)
- 嵐野 英彦 (東京都府中市)
- 嶋川 忠美 (神奈川県横浜市)
- 安浩 京子 (福岡県福岡市)
- 池川 礼子 (鹿児島県鹿児島市)
- 池田 珠賀子 (兵庫県西宮市)
- 池田 寿美子 (茨城県土浦市)
- 池田 奈南子 (神奈川県川崎市)
- 池谷 淳子 (千葉県山武郡)
- 生駒 泰子 (栃木県下都賀郡)
- 麻奈美 井澤 (茨城県土浦市)
- 石井 愛二 (神奈川県大和市)
- 石井 千穂 (東京都府中市)
- 石井 麻葉子 (大阪府東淀川市)
- 石井 之枝 (茨城県稲敷郡)
- 石川 越彦 (北海道札幌市)
- 石川 洋子 (神奈川県川崎市)
- 石川 文子 (東京都港区)

- 石毛 八重子 (埼玉県大宮市)
- 石崎 恵子 (神奈川県小田原市)
- 石崎 佳子 (栃木県小山市)
- 石原 加奈子 (石川県金沢市)
- 岩野 宏子 (神奈川県三浦市)
- 板橋 由紀 (東京都中野区)
- 板谷 志美 (新潟県柏崎市)
- 板谷 直子 (東京都世田谷区)
- 市田 良子 (神奈川県横浜市)
- 伊藤 博子 (千葉県市川市)
- 伊藤 みち (愛知県名古屋)
- 伊藤 優子 (愛知県愛知郡)
- 伊藤 和子 (大阪府豊中市)
- 伊奈 千加子 (神奈川県海老名市)
- 稲富 鏡恵 (北海道帯広市)
- 稲富 美鈴 (山梨県韮崎市)
- 稲富 勝彦 (愛知県半田市)
- 井之川 庸子 (大阪府高槻市)
- 今井 高子 (東京都大田区)
- 入部 由美子 (福岡県八女市)
- 岩倉 久美子 (埼玉県越谷市)
- 岩佐 生恵 (愛媛県今治市)
- 岩下 美和 (山梨県韮崎市)
- 岩野 めぐみ (三重県四日市市)
- 上村 晶子 (山口県岩国市)
- 宇野 洋枝 (兵庫県姫路市)
- 内田 弘子 (埼玉県川越市)
- 内田 ゆみ子 (神奈川県横浜市)
- 半津木 直子 (埼玉県浦和市)
- 浦口 由美 (東京都多摩市)
- 江崎 雅子 (福岡県北九州市)
- 江崎 光世 (神奈川県横浜市)
- 江崎 光世 (埼玉県浦和市)
- 海老原 美子 (東京都八王子市)
- 江良 康世 (青森県青森市)
- 大島 君子 (神奈川県横浜市)

Part3

参加者に見られるステップ継続効果

それでは継続効果というのはどういふところに現れるのでしょうか。ピティナ・ピアノステップに4回以上参加している先生に、生徒さんの変化を聞いてみました。

生徒、親、指導者の間のコミュニケーションが深まりました 河野 里穂ちゃん(湯本早百合先生)

この4月で小学校3年生になりました。最初はステップに出るのにためらいがありました。1回でると自主的に参加するようになりました。ステップに継続的に参加させて感じるの、ステップに関する話題で、コミュニケーションが取りやすくなってきたということでしょうか。親と指導者、指導者と生徒、生徒と親というそれぞれの関係の中で、曲選びから、練習方法、また参加した後では、アドバイザーの先生方のコメント、他の方の演奏に対するの感想など、会話が増えてきたように思います。

自分の好みにあった曲選び

井出 雅子さん、古畑あさ子さん、坂本孝子さん (戸沢睦子先生)

大人の生徒さんですが、みなさん、最初は同じ曲で同じようにスタートしました。第1回目のステップでは、まだ何も分からず課題曲のバイエルと、自由曲から「たわむれの恋」をそらって弾いたものです。

それが今では、自分で曲選びができるようになってきたのです。一見簡単なように思えますが、楽器店に行ったことなかった方が楽器店に行く、そこで自分の好みとテクニックに合った曲を選ぶ、これは結構難しいことです。大人の方たちは、概してバイエルに対してあこがれを抱いているようですが、一番から一曲ずつみて、自分の弾きたい曲だけ選んで勉強できるようにになりました。

井出雅子さんは、英語の先生をしていたこともあり、しゃきしゃきとした性格です。率先的になんでもトライする気もちをもって、歯切れのよい、早いテンポの曲が好き。次のステップではペダルを使って演奏したいという目的を持って臨んでいます。

古畑あささんは、数年前、ご主人を失ってしまいましたが、「自分がどう生きていけばいいか」ということをきちんと考えている方です。バロック、古典派の曲を好み、ピアノを励みとして、頑張っています。

「ピアノを弾けるお婆あちゃんになりたい」という希望を持っているのは坂本孝子さん。本人には歌ごころが人一倍あり、流れるようなメロディーの曲が得意です。

というように、それぞれの個性が反映された曲選び、指導する立場としても「次はどんな曲を選んでくるのか」と、とても楽しみにしています。

聴衆を意識した演奏ができるようになりました 安田 めぐみさん(相澤聖子先生)

大人の方によくあることかもしれませんが、最初は自分の殻に閉じこもったような細々とした演奏をしていました。それが、レッスンを始めて2年目ほどから、「人前で弾いてみようかな」という気持ちになってきたのです。ちょうどその気持ちが高まってきたころ、ピティナ・ピアノステップが始まりました。

大変まじめな方で毎日2時間の練習を怠らず、今では安田さんの方から「こういう検定があるようです」「次のこのステップを受けていいですか」ともちかけてくるようになりました。

ステップを受け始めた最初の頃も、聴衆は関係ないという考えでしたが、「演奏者と聴衆がいてはじめて演奏はなりたつ」ということを指導し続け、また公開であるステップの回数を重ねる事にそれが理解できてきたのでしょうか。「聴かせる」ことをアピールするような演奏になってきました。

レッスンや練習に対して、積極的になってきました

森野 照満さん(宮田俊枝先生) お子さまがピアノを習っていたので、教室にきたときも、森野さんはピアノに対する知識はいっぱいもっていましたね。やや自己流で演奏するという傾向にありましたが、ステップに参加するようになってから、大嫌だったメトロノームを練習に使い、基礎を学ぼうという意識が芽生えてきました。

それと同時に、受け身であったのが、レッスンに対しても積極的になってきたのです。例えばリズムの難しいところなど、自分から「先生、ここのリズムはおかしくないですか」というように。疑問・意識をもつと、上達もはやくになります。

「本番で100%の力を出せるように」と練習を積み重ねますが、一生懸命練習した自分の演奏に対して、他の方がどうおもっているのかという評価も気になるものです。アドバイザーの先生方に対しても非常に意識しており「ジェットコースターにのるよりこわい」そうですよ(笑)。

「前のステップの時、アドバイザーの先生がこういったから気をつけなくちゃ」というように、日頃からレッスンで注意していることでもステップのコメントにかかると気をつけ、次のステップに向けて練習を励んでいるようです。(※現在は水崎知実先生に師事していますが、ステップに参加し始めてからの変化をきくために、宮田俊枝先生にお話を伺いました。

本番ではリラックスした演奏ができるようになってきました

柴崎 恵理香ちゃん、大地君(椎名泰子先生) 「自分」というものが芽生えてきた中学2年生ですが、だんだん自己満足にすぎなかった演奏が、聴いてもらうことで自分の音楽を伝えようという姿勢がみられるようになってきました。3年前、はじめてステップに参加したころにはできなかった「全体をききながらの演奏」もできるようになってきたと感じています。これも緊張したなかでリラックスできているからなのでは？

他人の演奏に対する興味をもち、自分の反省へとつなげます

高田 洋子さん(水崎知実先生) 98年の東京秋期ステップでは、高田さんには一つの葛藤がありました。それは「ペダルをいれるか、いれないか」。前々からペダルに対しては興味を持っていたのですが、うまく入れられなければいい演奏にはならないことを他の人の演奏を聴いて知っていました。直前までさんざん悩み、結局やめてしまいましたが、ステップを目標として新たなことに挑戦できるというのはいいですね。

行程のペダルの話からも分かるように、他の方の演奏にはかなり興味を持っており、「自分もペダルをいれてみたい」とか「自分もピアノ、フォルテをもっと上手に表現したい」とか、自分の演奏への反省ともつなげているようです。

演奏への意識が芽生えてきました

小島 友一郎君(戸沢睦子先生) サッカーに夢中で、遊びたい盛りの小学校6年生。お母さんの希望もあり、前回のステップでは「親子連弾」をしました。ふだんはお母さんに言われてばかりという立場の祐一郎君も、このときばかりはお母さんをリードしてあげたり、気遣ってあげたり、教えてあげたりと、自然に演奏への意識もはっきりしてきました。お母さんも人前で演奏したことで記念となり、とっても嬉しそうでした。

何も目的がなかった練習するということだけでは、優先順位があります。たとえば、サッカーが1位、勉強が2位、ピアノは3位というように、ピアノは後回しにされてしまいかねません。しかし、ステップに参加するために曲を決める、つまり目的の目の前に掲げてあげると練習に向けての意識ができてきます。すると、ピアノは1位になり、こちらはその瞬間を逃さず、深く勉強させる。人はだれでも弾けるようになった曲を弾くのが大好きですね。深く勉強させておくと、弾ける曲ができ、継続につながります。祐一郎君にも、男の子らしくかっこいい、たくさん曲を弾けるようになってもらいたいですね。

- 大杉 恵子 (奈良県橿原市)
太田 里子 (愛知県稲南市)
大竹 雪江 (石川県小松市)
道哉 (兵庫県明石市)
大塚 道哉 (兵庫県明石市)
大塚 成子 (東京都世田谷区)
大塚 忠次 (栃木県栃木市)
大野 忠次 (宮城県仙台市)
大野 忠次 (静岡県岡部町)
大橋 多恵子 (福岡県福岡市)
大橋 とも子 (東京都中野区)
大島 誠とみ (愛知県名古屋市)
大林 裕子 (愛知県名古屋市)
小形 明美 (兵庫県三田市)
小川 恵子 (茨城県古河市)
小川 雅子 (兵庫県豊岡市)
小川 英子 (東京都練馬区)
荻野 和子 (神奈川県藤沢市)
奥田 尚子 (広島県広島市)
奥平 純子 (神奈川県鎌倉市)
奥村 久美子 (大阪府堺市)
尾崎 佳枝 (北海道空知市)
小佐野 圭 (東京都国分寺市)

- 小池 百合 (東京都杉並区)
小池 裕子 (埼玉県川口市)
小池 さゆり (東京都小平市)
小池 三佳 (栃木県宇都宮市)
小池 三佳 (大阪府東大阪市)
小池 公見子 (神奈川県横浜市)
小池 智子 (埼玉県所沢市)
小池 まゆみ (愛知県豊橋市)
小池 佳子 (愛知県名古屋市)
小池 玲子 (東京都荒川区)
小池 英更子 (富山県富山市)
小池 勝子 (東京都港区)
小池 ひろみ (富山県中新川郡)
小池 明子 (徳島県小松島市)
小池 保子 (神奈川県横浜市)
小池 恒子 (石川県金沢市)
小池 圭子 (新潟県新潟市)
小池 のりこ (栃木県宇都宮市)

- 川名 雅美 (栃木県宇都宮市)
川名 洋子 (北海道札幌市)
川名 洋子 (東京都練馬区)
川名 聡子 (埼玉県志木市)
川名 泰子 (東京都世田谷区)
川名 有恒 (宮城県仙台市)
川名 麗子 (東京都調布市)
川名 史織 (千葉県佐倉市)
川名 公彦 (神奈川県横浜市)
川名 ひとみ (福岡県相模郡)
川名 恭子 (福島県相馬郡)
川名 志子 (山形県山形市)
川名 博子 (岐阜県関市)
川名 麻生子 (神奈川県横浜市)
川名 美由紀 (兵庫県明石市)
川名 千賀子 (北海道札幌市)
川名 千賀子 (福岡県福岡市)
川名 千賀子 (神奈川県川崎市)
川名 智子 (神奈川県鎌倉市)
川名 一子 (埼玉県北葛飾郡)
川名 昌子 (北海道千歳市)

- 佐々木 真弓 (岩手県盛岡市)
佐々木 利子 (愛知県名古屋市)
指田 まち子 (東京都府中市)
佐藤 京子 (埼玉県浦和市)
佐藤 佳子 (愛知県豊橋市)
佐藤 季子 (東京都練馬区)
佐藤 三津子 (北海道札幌市)
佐藤 祐子 (神奈川県横浜市)
佐藤 玲子 (神奈川県平塚市)
佐村 奈保子 (大阪府堺市)
椎名 友紀 (千葉県四街道市)
重松 万里子 (東京都練馬区)
下松 千夏 (東京都目黒区)
下松 みどり (兵庫県神戸市)
篠田 香里 (大阪府豊中市)
島崎 香子 (愛知県豊橋市)
島崎 千賀子 (東京都府中市)
島崎 由紀 (埼玉県浦和市)
島崎 庸子 (大阪府大阪市)

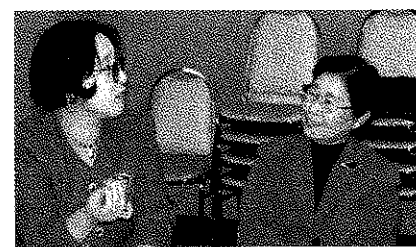
ステップ・アドバイザーを どう養成するか

去る3月10日(火)東音ホールにてステップ-指導者育成合同委員会が行われました。これは今回ステップアドバイザーに求められている「客観的測定」を見直すために臨時的に開かれたものです。委員会には指導者育成委員会から金子勝子委員長、江崎光世先生、武田真理先生、ステップ実行委員会からは戸沢睦子委員長、福田成康委員、保坂千里先生、渡部由記子先生、湯本早百合先生にご出席いただきました。「客観的測定」が求められているステップアドバイザーに今後どのような見直しが必要か、どのように養成していけばいいのかを中心に話し合いは進められました。

一様ではない聴き方が求められる

アドバイザーとしてピティナ・ピアノステップ参加者の演奏を聞く際に、先生方はどのような点を聴くのでしょうか。

戸沢：私は第一印象をまず率直に書くことにしています。また本人のコメントに対する意見や励ましも欠かせません。参加者の紹介コメントに「こういうところで弾くのは苦手」とあっても「そんなことなかったよ。がんばってね」というように。



左から金子勝子先生、江崎光世先生

江崎：弾いた曲に対するアドバイスはもちろんではありますが、「継続する大切さ」「向上のヒントになるように」「あなたの良さを引き出すように」「その日の出来について」など、多面的にアドバイスを与えるよう心がけています。「そう弾いているつもりなんだろうけれど、私にはこう聞こえました。なぜかな」といえば生徒さんもそこで考えるのではないのでしょうか。ピティナ・ピアノコンペティションでの審査と比べて、具体的にステップの審査はどのように違いますか。金子：ピティナ・ピアノコンペティションの審査は育成のことを考慮し、講評を書いても、点数は平均点としてできてしまいますから、難しいですね。保坂：全体の平均でつける必要のあるコンペの審査に比べ、ステップは1曲毎に対して評価できる。それがいいですね。福田：客観的なアドバイスとはい



戸沢睦子先生

え、基準はアドバイザーによって異なると思いますね。つまり3人のアドバイザーだったら一対一の関係が3本あり、どれも一様ではない。評価を受け取る側もこういうききかただと「S」、こういうききかただと「A」というように理解してもらうことができますね。戸沢：ステップだからといって何でも良いという評価では困りますよね。こういうところを聴いてくれたということが分かるアドバイスをアドバイザーの先生にお願いしたいです。保坂：甘い評価をしても、特に大人の人納得しないでしょう。自分の演奏を音楽としてみてくれていると分かるようなシビアな評価も嬉

棚内 康子 (青森県南津軽郡)
中川 智子 (愛知県知多郡)
長浦 知保 (大阪府堺市)
中倉 のり子 (神奈川県横浜府)
長澤 あけみ (東京都八王子市)
長島 幸太 (千葉県流山市)
中島 卓郎 (長野県長野市)
中島 昌子 (東京都国分寺市)
中島 政裕 (福岡県久留米市)
中島 美津子 (兵庫県川西市)
中西 昌代 (神奈川県茅ヶ崎市)
中野 慶理 (兵庫県三田市)
中野 ゆかり (広島県世羅郡)
永久 裕美 (山口県山口市)
中村 明后 (東京都世田谷区)

中山 靖子 (東京都渋谷区)
那須 理恵子 (大阪府大阪市)
那須 芳徳 (長野県長野市)
並木 律子 (神奈川県川崎市)
奈良場 恒美 (東京都町田市)
成田 剛志 (愛知県名古屋府)
新谷 志了 (千葉県印旛郡)
西尾 奈緒美 (愛知県知多郡)
西川 悦子 (大阪府大阪市)
西原 方理 (神奈川県平塚市)
西森 秀美 (兵庫県神戸市)
西山 新田 (東京都練馬区)
新山 恵理子 (鳥取県倉吉市)
根津 栄子 (千葉県市川市)
野塚 顕子 (大阪府泉佐野市)
野沢 優子 (福岡県福岡市)
灰谷 操 (滋賀県八日市市)

橋本 千寿 (大阪府貝塚市)
橋本 深雪 (奈良県生駒郡)
蓮実 マス子 (栃木県那須郡)
長谷川 淳 (愛知県豊橋市)
長谷川 友紀 (東京都練馬区)
畠山 美佳子 (埼玉県黒羽市)
畑瀬 由美子 (福岡県福岡市)
羽原 栄 (福岡県世田谷区)
花谷 加奈江 (京都府京都市)
馬場 和世 (京都府京都市)
羽原 久美子 (広島県福山市)
浜本 多都子 (千葉県四街道市)
林 公子 (愛媛県新居浜市)
林 苑子 (東京都文京区)
林原 恵子 (富山県射野郡)
樋口 哲子 (福岡県浮羽郡)
飛鷹 真紀 (愛媛県伊予三島市)
平尾 典子 (神奈川県横浜府)

平間 百合子 (宮城県仙台市)
深野 まや子 (埼玉県狭山市)
廣野 尚子 (埼玉県板橋区)
深谷 直仁 (愛知県高浜市)
福田 美奈子 (神奈川県横浜府)
福田 優子 (埼玉県黒羽市)
福留 真穂 (滋賀県近江八幡市)
藤本 幸子 (福岡県福岡市)
藤川 浩 (広島県福山市)
藤澤 真理子 (京都府舞鶴市)
藤巻 博子 (埼玉県浦和市)
藤六 友見子 (香川県善通寺市)
佛坂 みゆき (北海道旭川市)
古屋 千穂 (福岡県福岡市)
星野 明子 (福岡県いわき市)
細川 裕子 (福岡県いわき市)

徳積 有紀 (千葉県我孫子市)
堀江 理恵 (千葉県松戸市)
長多 昌子 (東京都杉並区)
前田 光子 (東京都練馬区)
増田 光三子 (千葉県宇都宮市)
松尾 英美 (東京都世田谷区)
松川 康子 (長崎県長崎市)
松川 優子 (埼玉県上蓮田市)
松田 映子 (東京都小金井市)
松田 雅子 (神奈川県横浜府)
松田 真理子 (兵庫県宝塚市)
松本 フサ子 (岡山県岡山市)
松本 晃子 (愛媛県松山市)
松本 珠美 (兵庫県神戸市)
丸山 京子 (埼玉県所沢市)
萬 喜子 (東京都羽村市)
三島 妙子 (東京都国分寺市)

水野 恵理子 (奈良県奈良市)
津部 洋子 (千葉県松戸市)
三橋 登紀江 (東京都中央区)
峰岸 康子 (千葉県松戸市)
味摩 裕子 (東京都大田区)
宮城 裕子 (沖縄県宜野湾市)
宮地 祥江 (神奈川県鎌倉市)
三好 のび子 (静岡県藤枝市)
村上 清子 (広島県広島市)
村澤 由利子 (徳島県鳴門市)
村山 伊津美 (東京都小金井市)
村山 裕子 (北海道札幌市)
森 敏子 (千葉県千葉市)
森 裕子 (千葉県木更津市)
守 麗子 (千葉県千葉市)
守 治美 (埼玉県川口市)
守山 恵美子 (東京都八王子市)

諸隈 まり (東京都三鷹市)
阿澤 隆宏 (兵庫県明石市)
矢島 康代 (東京都立川市)
安沢 美登里 (新潟県村上市)
山内 真理 (高知県高知市)
山下 富江 (静岡県天竜市)
山田 京子 (兵庫県西宮市)
山田 貞治 (愛知県犬山市)
山田 つづみ (三重県津市)
山根 祐子 (東京都杉並区)
山根 真由美 (山口県萩市)
山本 和美 (東京都大田区)
山本 京子 (東京都品川区)
山本 節子 (兵庫県神戸市)
山本 裕子 (兵庫県神戸市)
山脇 一宏 (神奈川県川崎市)
湯佐 佳代子 (大阪府守口市)

湯本 陽子 (千葉県千葉市)
中井 佳久 (千葉県千葉市)
横山 真枝 (千葉県柏市)
吉岡 佳枝 (大阪府高槻市)
吉岡 千賀子 (埼玉県浦和市)
吉川 知方 (大阪府羽曳野市)
吉田 恭子 (兵庫県神戸市)
吉田 貴子 (兵庫県神戸市)
吉田 玲子 (大阪府堺市)
吉村 章子 (福岡県北九州市)
吉村 明子 (東京都大田区)
渡辺 陽子 (愛知県名古屋府)
渡辺 登志子 (東京都練馬区)
渡辺 陽子 (東京都品川区)
※たぐさんの方々からご返信をいただきました。ありがとうございました。

左：武田真理先生 右：保坂千里先生

しいようです。「S」というのはあっても、そう簡単にはもらえないものというので良いと思います。

アドバイザーに必要とされる能力とは

ではステップのアドバイザーには基本的な音楽能力以外にどのような能力が必要だと思われるか。

渡部：受ける人に対してだけではなく、その人のバックに当たる親や指導者のことなども同時に思う優しさが必要なのではないかと思えます。かつて自分の生徒が長年あこがれていたショパンを弾き、シニアを受けたことがありました。しかしそのときの講評に「おばさんみたいなショパンだ」とかかれ、その後出る気をなくしてしまいました。江崎：相手の立場を考え、表現の工夫をする努力や文章力は大切ですよ。私も

「私にはこう思えた、こう感じた」という表現を使うようにしているのです。そうすれば生徒も「一人一人の感じ方は違う」と理解できますよね。湯本：ステップに参加させるのは指導者にも依るところがあるので、先生方にご理解して頂くようなアドバイスの書き方を工夫する必要もありますね。戸沢：励ましの気持ちをうまく伝えられるような文章力もあるといいですね。金子：生涯学習であるということを常に念頭におき、上から判定・評価するのではなく共感する姿勢が必要なのではないでしょうか。江崎：そして何より経験が豊富であることが前提でしょう。一同：そうですね。

アドバイザー養成のために

それでは、今後アドバイザーを志望される方にステップ-指導者育成合同委員会としてどのような機会を提供したらいいと思いますか。

武田：まず基礎的な音楽能力を身につけるために、指導者検定セミナーの初級、中級、上級すべてを聴講していただくことは必須条件ではないでしょうか。金子：指導者検定を上級まである程度よい評価をへてクリアして頂かな

を考慮すると、どうしても35才以上のかたになってしまいます。アドバイザー3人のうち2人は経験の豊富な方をいれるというのはいかがですか。ベテランの先生のアドバイスなどをみて成長することは多いと思いますよ。金子：出場する側の立場を知る意味で何人かはステップに参加させることも大切でしょう。保坂：アドバイザー研修の場を設けるというのはどうですか。クラシック以外に、ジャズ、ポピュラー等幅広いジャンルに対する知識や興味をもつことは大事ですから。違うジャンル、例えばジャズの曲を知ってもらうために、その分野で活躍している人を呼んで講座の機会を設けるなどいいのではないのでしょうか。金子：それは良い考えですね。ステップ実行委員会と指導者育成委員会が合同で行ったらいいですね。保坂：そうすると、東京に限らずできれば地方でも研修の場を設けてほしい。そしてステップアドバイザー志望ではない人も、自由に受けられるような講座であればいいですね。



湯本早百合先生



渡部由記子

